

趣意書

近年、福祉と連携した農業の取組が全国的に広がっています。三重県においては、平成24年度「みえ県民カビジョン」で、「『共に生きる』社会をつくる障がい者自立支援プロジェクト」を特に注力すべき施策課題に位置づけました。それに基づく「農福連携による就労支援の促進」の取り組みにより、農業分野で就労している障がい者が、平成24年度末の196人から、昨年度末では524人に増加し、形は様々ですが、農業分野で働く障がい者が増えてきています。

では、今、なぜ、「農福連携」なのでしょう？

農業・農村の現場では、少子高齢化や農業所得の減少などにより、農業労働力の減少や耕作放棄地の増加が課題となっています。一方、障がい者は、就業率が低く、障がい者が通う福祉事業所では、企業の下請け作業や手工芸品の製作などで得る工賃は非常に少ないという課題があります。

この双方の課題を解決しようと「農」と「福」が連携した結果、農業サイドでは、労働力が確保でき、農地管理が恒常的になされるようになり、農業規模の拡大・収入増につながる効果がみられるようになりました。福祉サイドでは、新しい職場が確保され収入を増やすことができ、また、農作業を通じて、地域との交流が始まり、障がい者への理解が広がり、さらには地域おこしにまでつながる事例が生まれてきています。

双方の課題を解決しながら、双方に利益があるWin-Winの取組、それが「農福連携」です。

このたび、農林水産省・厚生労働省の後援をいただき、三重県と一般社団法人三重県障がい者就農促進協議会が主催し、「農福連携全国サミット in みえ」を開催いたします。

この機会に、「農福連携」の意義をご理解いただき、三重県内各地で広がってきている「農福連携」の取り組みにご賛同いただき、応援していただきますようお願い申し上げます。

2016年10月吉日

一般社団法人三重県障がい者就農促進協議会
代表理事 中野和代

(別紙)

送付先 fax 059-253-3359

送付状なしでこのままお送りください。

「農福連携」の取り組みに賛同します。

貴会社・団体名 _____

所在地 〒 _____

電話番号 _____ FAX _____

E-メール _____